



2010年10月18日

アメリカ合衆国大統領
バラク・フセイン・オバマ・ジュニア 様

日本YWCA

会長 俣野尚子

総幹事 西原美香子



米国の臨界前核実験に抗議します

米国政府が9月15日に核爆発を伴わない臨界前核実験を米西部ネバダ州の地下核実験場で実施していたことが10月12日に報じられました。私たち日本YWCAは、米国政府が2006年8月以来24回目の臨界前核実験を行ったことに対し、強く抗議します。

2009年4月5日のバラク・オバマ大統領のプラハでの演説は、全世界に、米国が世界の平和と安全のために核兵器廃絶を追求し、全世界的な核実験の禁止を信念を持って明言するとともに、米国による包括的核実験禁止条約の批准を直ちに、積極的に推進することを宣言するものでした。この演説は、核兵器のない世界のビジョンの実現を心待ちにしていた世界中の人たちの心を熱くし、世界を核廃絶に向けて動かししました。オバマ大統領のノーベル平和賞の受賞は、米国政府に対してプラハでの演説の実行を約束させるものであり、米国政府の発言撤回を抑止するものであったと私たちは考えます。しかし、米国政府による今回の臨界前核実験の実施は、世界中の人々に対して大きな失望を与えたと共に、地球環境にも取り返しのつかないダメージを与えたことは言うまでもありません。

日本YWCAは、米国政府によるヒロシマ・ナガサキへの原爆投下による被爆の経験から、核と人間は共存できないことを確信し、あらゆる核実験の中止と核兵器の廃絶を求めて活動すると共に、核の脅威を次世代に伝えようと「ひろしまを考える旅」を1971年以来毎年実施してきました。また戦後半世紀の経験から、私たちは核兵器の保有が、国際緊張をもたらし、世界の平和構築を妨げていることを熟知しています。

日本YWCAは、米国政府が世界の人々の核兵器廃絶を願う声を真摯に受け止め、すべての核保有国と対話し、いのちの尊厳に立ち返って次世代への責任として核兵器の保有を放棄し、真の平和構築のために英知を集めて働くことを切に願い求めます。

日本YWCA 【駿河台オフィス】〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室

TEL:03-3292-6121 FAX:03-3292-6122